



伊吹山テレビ112ch 3月1日(金)~7日(木)放送

市では、平成24年4月から職員を派遣し、福島県相馬市の復興を支援しています。この特集番組では、派遣職員が現地の復興現状などをレポートします。ぜひご覧ください。

一方、内陸部は一見すると平穏な雰囲気ですが、地震の揺れで生じた路面の段差や損壊家屋が各所に見受けられるほか、山あいの玉野地区は放射線量が高い状態が続いているなど、震災から3年目を迎える現在も、深い爪痕が残っています。

私は相馬市で集団移転のための住宅地整備などに携わっていますが、今回の特集番組では、相馬市の復興現場の様子について様々な人のインタビューを交えてお伝えします。被災地の状況に寄り添った継続的な支援や、米原市の防災意識の高まりにつながれば幸いです。


相馬市は、福島県の浜通り地方の北部に位置し、東西約28km、南北約13km、面積約198km²と、米原市よりも少し小さいまちです。西に阿武隈の山並み、東に太平洋を望み、多様で豊かな自然に囲まれたこの地域を、東日本大震災で大津波が襲いました。津波による浸水面積は、地域の約14%。沿岸部の尾浜地区・原釜地区・磯部地区などは特に甚大な被害を受け、まるで遺跡のように住宅の基礎だけが残っている場所もあります。

このような中、相馬市では「相馬市復興計画」に沿って、立ち秀清市長の強いリーダーシップのもと、全力で復興に取り組まれています。年頭の市長訓示では、「登山に例えて現在3合目とすると、今年は一気に6合目あたりまで登らなくてはならない。被災者の生活の状況や心情を考えると、だんだん限界が近づいている」と、一日も早く復興を成し遂げることに必要性を語っておられました。


災害協力派遣職員からのメッセージ



相馬市建設部都市整備課
室谷 弘幸(米原市派遣職員)

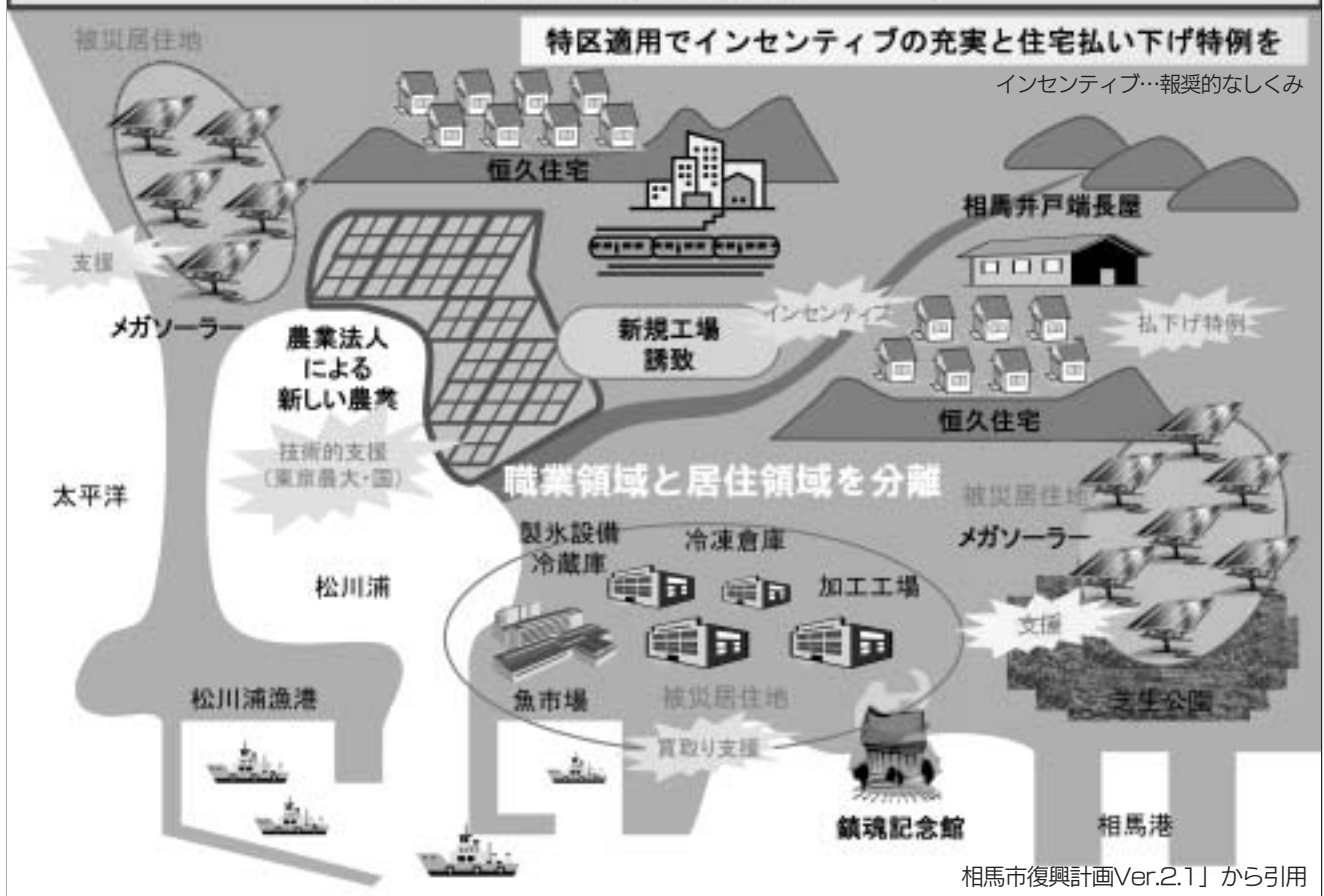


人口 36,459人
世帯数 13,854世帯
(平成25年2月1日現在)
<http://www.city.soma.fukushima.jp/>



相馬市は「全国水源の里連絡協議会」に加盟する仲間です。昨年6月には両市で「災害時における相互応援協定」を締結しました。

相馬市復興計画のイメージ



ガレキの処理

1年間に約8年分に相当するガレキが中間処理施設に集約された。焼却炉の建設によって、平成25年度中の処理完了をめざす。



漁業基盤の整備

漁港から離れた復興住宅の生活圏内では漁具倉庫や作業所が確保できないため、新たに漁港の近くに漁具倉庫付個別作業所を整備。

●被災地整理を行う中で、建物が流出し、多くの犠牲者を出した地域を「災害危険区域」として建築を制限し、この地域に住んでいた世帯の高台への集団移転を推進。

●移転後の土地については、国の支援制度を活用して市が買い取り、職業領域として産業分野で利用。

ハード事業

*上図参照

「相馬市復興計画」は、おおむね平成27年度までに復興を成し遂げることを目標に策定されたものです。この計画の進行管理にあたっては、市民代表の方や関係団体等で構成される「相馬市復興会議」が定期的開催され、事業の見直しや充実について検討されています。

災害応援協定を結んだ仲間として 知っておきたい！ 「相馬市復興計画」

●従来のコミュニティ形式を応急仮設住宅の中にも取り入れて「組長戸長制度」を構築。孤独死防止のための見守りや救援物資の配給などを行う。

●「ホールボディーカウンター」*1を市内の病院に配備して、市民の放射線の内部被ばくの状況を把握。また、子どもや妊婦を対象に「ガラスバッジ」*2による放射線の外部被ばくの影響を測定。

以上を一例として、相馬市では復興に向けた様々な取り組みが進められています。復興事業の実施にあたっては、被災者の雇用につながるような働きかけも行われており、経済対策にもつなげられています。

その他、復興計画の詳細については、相馬市ホームページでご覧いただけます。

ソフト事業

*1…人の体内に取り込まれた放射性物質の量を測定する装置
*2…個人が受けた積算の放射線量を測定する小型の線量計

相馬市 総務課・地域防災対策室
みやざき とみよし
 課長兼室長 宮崎 富由さん

「土木工事は通年の5～6倍の仕事量。
 圧倒的に技術者が不足している」

総務課長、そして地域防災対策室長として、復興の陣頭指揮の一翼を担われている宮崎さんから、相馬の復興計画や今後の防災対策について教えていただきました。

復興に向けて人々の住むところと働くところを整えるためには、相当量の土木工事をを行わなければならない、米原市も含め全国から23人の職員が相馬市に応援に駆けつけているそうです。「相馬の海でとれたおいしい魚が食べられるようになってこそ、本当の復興」と、熱く語る宮崎さんの姿に、相馬への愛情を強く感じました。



インタビュー
 Interview
 復興の現場から

相馬の復興に向けて頑張っておられるみなさんの声。番組では現場の映像とともにお届けします。



東京都稲城市からの派遣職員
きどころ としゆき
 相馬市土木課 城所 敏幸さん

「相馬野馬追の復活に
 市民の結束力を感じた」

避難道路の測量設計など携わっておられる城所さん。今後、用地買収が必要になっていく中で、土地を手放すことに対する被災者の方の気持ちに寄り添いながら、粘り強く進めていきたいと語っておられました。

また、昨年7月末に行われた「相馬野馬追」という伝統のお祭りが、市民の力で震災前と同じ規模にまで復活したことに地域の底力を感じ、感動したそうです。



広島県広島市からの派遣職員
ふくま あきこ
 相馬市建築課 福馬 晶子さん

「相馬に息づく
 報徳の教えを感じた」

建築技師として集会所や公民館などの高台移転に携わっておられる福馬さん。土地の提供など、地域の協力を得ながら仕事を進めておられるそうです。

相馬市には、二宮尊徳の教えに基づく農村のたて直しの精神「報徳仕法」が受け継がれていますが、市民の方が辛さを表に出さず、一步一步復興に向けて努力されている姿が心にしみると語っておられました。



リヤカー行商「海援隊」
さいとう まさこ
 買い物生活支援員 齋藤 正子さん
 (写真右)

「被災者が被災者を支える。
 最初のうちは
 泣きながら販売することも…」

もともとは、浜の近くの民宿で働いていたという齋藤さん。震災で職場を失った人が集まって、仮設住宅に住む高齢者の方の買い物支援を行っておられます。

仮設住宅の路地でリヤカーを引いて、齋藤さんがチリンチリンとベルの音を響かせると、到着を心待ちにしていた被災者のみなさんの姿が。「週末はどうしてた?」「野菜も食べてね」と、齋藤さんは一人ひとりにいたわりの声をかけながら野菜などを販売されていました。

「被災者同志だからこそ分かり合えることもあり、最初のうちは抱き合っ泣きながら販売していたこともあったんです」と齋藤さん。最近では、住むところが決まって仮設住宅を出て行く人がいると寂しさを感じることもあるそうですが、「これも復興の証」と笑顔で語っておられました。

相馬特集の
 DVDを
 貸し出します!

伊吹山テレビ相馬特集 -DVD収録内容-

1月25日(金)～1月31日(木)放送 相馬市長のビデオメッセージ
 3月 1日(金)～3月 7日(木)放送 米原市派遣職員「相馬レポート」

上記の2週分の伊吹山テレビの特集を収録したDVDを貸し出します。相馬市への復興支援に理解を深め、地域の防災について考える機会として、研修会などにお役立てください。ご希望の方は、下記まで。

問 広報秘書課(米原庁舎) ☎ 52-6627 FAX 52-5195



緊急避難所設置のための協定を 市内民間3事業所と締結

1月29日、市内に本社や工場等の拠点がある大阪シーリング印刷株式会社、近江鋳業株式会社、リゾートトラスト株式会社エクシブ琵琶湖の3社と市との間で「絆で築く安心な地域協力避難所に関する協定」を締結しました。

この協定により、災害発生時に広域避難場所までの距離が遠い地域や災害の状況により避難が困難になることに備えて、市から協力企業に避難者の受け入れを要請し、「民間等協力緊急避難所」を開設するものです。

今後も市では企業や事業所との連携を強化し、万が一に備えた体制づくりに向けた取り組みを進めていきます。

協定締結事業所と概要

大阪シーリング印刷株式会社（藤川）



藤川・寺林・上平寺地先においては避難所として適切な施設が少なく、広域避難所までの距離が遠いことから、滋賀生産部第一工場内配送センターを民間等協力緊急避難所として指定。

近江鋳業株式会社（長岡）



天野川の氾濫により山東公民館等の広域避難所へ避難することか困難になることに備えて、本社、長岡工場事務所を民間等協力緊急避難所として指定。

リゾートトラスト株式会社 エクシブ琵琶湖（磯）



広域避難所となる米原小学校や中学校、米原公民館まで、かつての入江内湖の一部を通ることとなり、状況によって避難が困難となることに備えてエクシブ琵琶湖を民間等協力緊急避難所として指定。



1月
30日

米原市地域防災計画 防災会議で正式決定

1月30日、市役所山東庁舎で開催した第3回米原市防災会議で、これまで見直しを進めてきた「米原市地域防災計画」が正式に決定されました。

この計画では、市内に最も大きな影響を及ぼす柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯の地震（マグニチュード8・2）を想定して被害想定を見直し、これに基づいて各種防災対策を見直しました。主なポイントは次のとおりです。

●孤立するおそれのある 地域への対策

災害発生時に道路の寸断などによって集落が孤立するおそれのある地域に対して、代替輸送手段となる防災ヘリの離発着場の候補地を選定したほか、備蓄倉庫の新規配置を盛り込みました。

●避難計画の見直しと 避難所の再配置

これまでの避難所について、自助・共助・公助の役割分担を明確にした位置付けに見直しました。また、新たに「民間等協力緊急避難所」の位置付けを行いました。（左の記事参照）

●原子力災害対策編を 新たに策定

隣接する福井県の原子力発電所の事故を想定して策定しました。ただし、原子力災害対策については、国や県でも継続検討中であることから、今後、その結果を踏まえて見直していきます。

東日本大震災や阪神淡路大震災の教訓から、自分の命は自分で守るこ

と、地域での助け合いの大切さが再確認されています。災害に備え、安心・安全に暮らせるまちづくりには市民、地域、防災関係機関が協働して防災対策を進めることが必要です。

市では、この地域防災計画がより実効性のあるものとなるよう、地域や企業等のみなさんとともに防災・減災に向けた取り組みを進めていきます。市民のみなさんも防災訓練や絆マップの見直しに参加する等、防災対策を推進しましょう。

なお、地域防災計画は、市政情報プラザとウェブサイトでご覧いただけるほか、「米原市総合防災マップ」が完成次第、各ご家庭にお届けする予定です。